

浅口市議会 平成30年第1回 3月定例会

桑野和夫議員質問と当局回答

平成30年第1回 3月定例会 - 03月06日-03号

P.101

◆8番(桑野和夫) それでは、質問をさせていただきます。

今回は図書館の概要と今後の方向性について、1点だけ質問をさせていただきます。

この図書館のことにつきましては、私は2013年の6月議会で質問をしました。そのときの内容は、浅口市はコンパクトなまちにもかかわらず公立図書館が3館と金光図書館合計で4館あり、1人当たりの蔵書数は全国一であることから、図書館のまちとして、読書のまちとしてPRしてほしい。それから、4館の連携をとってほしい。それから、加えてインターネット予約貸し出しなどの実施を求めました。

そういう立場で今回も市民の知的な要求を保障するものとして、図書館の発展を願う立場から質問をしたいと思います。

まず初めに、概要でありますけども、登録者数と貸出冊数、蔵書冊数、この数字について3館別々にお示しをお願いします。

P.101

◎教育次長(榎田忠) 図書館の概要ということで、登録者数をお尋ねでございます。

最新の1月末現在で1万3,593人。各町別に申し上げますと、金光が4,022人、鴨方が6,571人、寄島が1,504人、それから里庄の方が6,422人、その他854人、その他というのは在勤とか在学の方でございます。

それから、貸出冊数をお尋ねでございます。

これはまだ1年間トータルが今年はないので、昨年度の個人貸出冊数をお答え申し上げます。金光さつき図書館が6万3,071冊、鴨方図書館が10万8,460冊、寄島図書館が2万4,415冊です。

それから、蔵書もお尋ねでございます。

これも一番最新の1月末でお答えをいたします。金光さつき図書館が5万1,373冊、鴨方図書館が13万5,146冊、寄島図書館が2万1,907冊で合計20万8,426冊であります。

P.101

◆8番(桑野和夫) ありがとうございます。それで、通告してないんで数字がなかったらいいんですけども、登録者数と貸出冊数について近年の動向、ざっくり言うとふえていいのか減っているのか、その辺をお知らせをお願いします。

P.102

◎教育次長(榎田忠) 数字のことなんで、通告なんで細かいことはあれなんですけど、傾向的に貸し出しは、ここ数年、前年対比でどれくらいかという計算をざっくりしているんですが、大体0.98から1.0とかなのでほぼ横ばい、貸し出しは、人口の減少とかもあるので、それをいくと減ってはいないのかなという感じ、これも概要でございます。

P.102

◆8番(桑野和夫) ありがとうございます。

では、2番に移りますが、インターネットの予約ですが、これは私が2013年6月の

議会で質問して以降実施をしていただいておりますけども、この予約の現状についてお知らせをお願いしたいと思います。

P.102

◎教育次長（榎田忠） インターネット予約の現状についてお答えをいたします。

インターネット予約は、議員さんもおっしゃいましたように、平成26年度からサービスを開始いたしました。26年度は件数が1,338件、27年度が2,306件、28年度が2,645件で、29年度は途中なんですけど2月末で2,696件となっております。年々増加をいたしております。ただ、近隣と比べてもそんなに多いというわけではないので、PRをして窓口等でもこういうのがありますよと張り紙をしたりしております。利用の方にはどうしても本を見て選びたいという方もおられるんです。人気のある、例えば賞なんかをとった本に関しては、それから新刊とかには殺到されますのでそういう方がインターネットの予約をしておられるようでございます。

P.102

◆8番（桑野和夫） ありがとうございます。

では次に、3番の図書館事業のさらなる発展方向について質問をします。

教育長に質問しますが、教育長として図書館の役割をどのように捉え、今後どのような方向性をお考えかお願いをいたします。

P.102

◎教育長（中野留美） 読書は心の栄養であると言われてます。ですので、そういった充実した図書館の運営に努めてまいりたいというふうに思っています。

さらなる発展についてということなんですけど、市内にある公立3つの図書館ですけれども、それぞれに特色のあるサービスを行っています。

まず、金光さつき図書館、これは児童サービス、児童図書サービスに積極的に取り組んでおまして、図書館のこどもまつりとかぬいぐるみのおとまり会など、本当に特色ある事業、これを行っています。

それから、寄島図書館ですが、これは子供や高齢者の方の身近な図書館になるよう努めておまして、こども園とか保育園の園児を招いて読み聞かせを行っています。また、海に関する蔵書、これに力を入れてましてPRをしておるところです。

それから、鴨方図書館ですが、こちらでは天文の講座を開いておまして、地域の特色を出すとともに、3館の中心的図書館としての全体的な市民サービス、これに配慮をしているところなんです。

今後も浅口市のこの恵まれた図書館環境だと思っておりますので、これを生かして事業を進めていって、市民皆さんに本当に身近にあって親しみやすい、そういった図書館にしてまいりたいというふうに考えているところです。

P.103

◆8番（桑野和夫） ぜひよろしくをお願いします。

それで、市長にお聞きしたいと思っておりますけども、今執行部では本庁、支所の業務の見直しを行っており、教育委員会の分室も基本的には今後窓口業務だけにしようというふうな方向性を示されております。その是非は別にして、図書館については今後統合や縮小などをしないでほしいと私思いますが、その辺についていかがでしょうか。同時に全体的な図書館についての御意見があればお聞かせをお願いします。

P.103

◎市長（栗山康彦） それでは、図書館の今後の方向性ということでお答えをさせていただきます。

浅口市には公立図書館が3館あることで市民の皆様に身近なサービスが提供できておりまして、とても恵まれた環境にあると考えております。市では現在、市民の皆様や議会の皆様の御意見を伺いながら、本庁と支所の組織、業務の見直しに取り組んでおります。市民サービスを維持しながら組織のスリム化を進める中、図書館につきましては旧町にそれぞれ図書館がある、この体制を維持してまいります。

以上でございます。

P.104

◆8番（桑野和夫） ぜひ維持をしてほしいと思います。

今後、知る自由を保障して、同時に図書館法に基づいて、さらに図書館事業が発展するよう期待を申し上げ、私の質問は終わります。ありがとうございました。

平成30年第1回 3月定例会 - 03月15日-05号

P.158

◆8番（桑野和夫） 反対です。

P.158

◆8番（桑野和夫） 議案第9号の浅口市介護保険条例の一部を改正する条例について反対の立場で討論に参加をします。

条例改正により介護保険料の基準額は月額5,300円から5,500円になります。保険料は3年ごとに改定をされますが、これまでの最高額になります。これはもう介護保険制度の破綻と言うべき状況であり、制度導入に当たり国の財政負担が引き下げられたことが重大な影響を及ぼしております。今の介護保険制度は利用料については一定の所得以上がある人は自己負担額が上がります。さらに、介護保険で要支援1と2を受けた人は、基本的に保険から除外をして市が実施をします総合事業に移行をします。さらには、特別養護老人ホームへの新たな入所も制限をされております。

昨年、日本共産党が実施をしたアンケートによりますと、今、浅口市政で特に力を入れてほしいことについては何ですかの問いに、第一に来たのが介護保険の負担軽減で、第2位で国税の引き下げが来ました。このことから見ても、生活が大変、これが実感ではないでしょうか。市民の多くがこの引き上げの影響を受けることになります。これらの方々にできるだけ負担の軽減を考えるのならば、介護保険料を据え置くべきと考えます。特に少ない年金だけで生活をしている方にとっては大変な負担増であります。私は、こういうことから一般会計から介護保険の特別会計に政策的に繰り入れるまたは介護保険の基金の一部を取り崩すなどして保険料を抑えるべきだと考えております。

こうした立場から今回の条例改正には反対をいたします。議員の皆さんの御賛同をお願いをいたしまして討論とします。

P.167

◎議会事務局長（畝山善生） [発議第2号朗読]